

聖徳太子
1400年遠忌記念

特別展

聖徳太子 と 法隆寺

The 1400th Memorial for Prince Shōtoku

HORYŪJI

Prince Shōtoku and Treasures of Early Buddhist Faith in Japan

プレスリリース

聖徳太子1400年遠忌記念 特別展「聖徳太子と法隆寺」

The 1400th Memorial for Prince Shōtoku HORYŪJI Prince Shōtoku and Treasures of Early Buddhist Faith in Japan

奈良国立博物館

東京国立博物館

会期	2021年4月27日(火)～6月20日(日) [前期] 4月27日(火)～5月23日(日) [後期] 5月25日(火)～6月20日(日)	2021年7月13日(火)～9月5日(日) [前期] 7月13日(火)～8月9日(月・休) [後期] 8月11日(水)～9月5日(日)
会場	奈良国立博物館 東・西新館(奈良公園内)	東京国立博物館 平成館(上野公園)
主催	奈良国立博物館、法隆寺、読売新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿、文化庁	東京国立博物館、法隆寺、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション、文化庁
特別協賛	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス	
協賛	清水建設、高島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事	
協力	NISSHA、日本香堂、仏教美術協会	NISSHA
お問合せ	ハローダイヤル 050-5542-8600	ハローダイヤル 050-5541-8600
展覧会公式サイト	https://tsumugu.yomiuri.co.jp/horyuji2021/	

展示会場、期間の限られる作品については、 奈良国立博物館 東京国立博物館 [前期] [後期] で表示しています。表示のないものは両館で展示を予定しています。
【例】 :奈良国立博物館で通期展示 [後期] :東京国立博物館で後期のみ展示

○ 開館時間、休館日、入館方法等の情報は、確定し次第公式サイト等でお知らせします。○ 展示作品、会期、展示期間等については、今後の諸事情により変更する場合がありますので、公式サイト等でご確認ください。

報道関係お問合せ

特別展「聖徳太子と法隆寺」広報事務局(共同PR内) 担当 三井

〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 TEL 03-3575-9823 FAX 0120-653-545 horyuji2021-pr@kyodo-pr.co.jp

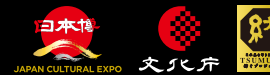


表: 国宝 薬師如来坐像(部分) 飛鳥時代・7世紀 奈良・法隆寺蔵 裏: 国宝 伝橋夫人念持仏(部分) 飛鳥時代・7～8世紀 奈良・法隆寺蔵

本展は、日本美を守り伝える「訪くプロジェクト」の一環として開催します。

和を以て貴しとなす

The 1400th Memorial for Prince Shotoku

HORYUJI

Prince Shotoku and Treasures of Early Buddhist Faith in Japan

奈良・斑鳩の地に悠久の歴史を刻む法隆寺は、推古天皇15年(607)、聖徳太子によって創建されたと伝えられます。太子は仏教の真理を深く追究し、また冠位十二階や憲法十七条などの制度を整えることで、後世に続くこの国の文化的な基盤を築き上げました。聖徳太子を敬う人々の心は、その没後に信仰として発展し、こんにちもなお日本人の間に連綿と受け継がれています。

令和3年(2021)は聖徳太子の1400年遠忌にあたり、これを記念して特別展「聖徳太子と法隆寺」を開催します。会場となる奈良国立博物館と東京国立博物館では、法隆寺において護り伝えられてきた寺宝を中心に、太子の肖像や遺品と伝わる宝物、また飛鳥時代以来の貴重な文化財を通じて、太子その人と太子信仰の世界に迫ります。特に金堂の薬師如来坐像は日本古代の仏像彫刻を代表する存在であり、飛鳥時代の仏教文化がいかに高度で華麗なものであったかを偲ばせてくれます。

本展覧会は1400年という遙かなる時をこえて、今を生きる私たちが聖徳太子に心を寄せることでその理想に思いを馳せ、歩むべき未来について考える絶好の機会となることでしょう。

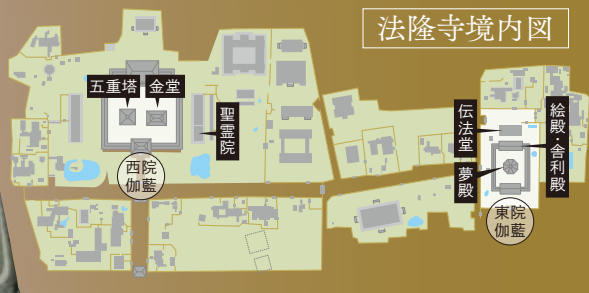
HORYUJI

法隆寺

奈良県生駒郡斑鳩町に位置する聖徳宗の総本山。推古天皇15年(607)に聖徳太子により創建されました。天智天皇9年(670)の火災後、8世紀初めまでに再建されたのが金堂・五重塔を中心とする西院伽藍で、金堂内には飛鳥時代の諸仏が安置されています。天平11年(739)頃に建てられた夢殿を中心とする東院伽藍は、太子信仰の中心となりました。法隆寺は建築・美術・文学などあらゆる分野において、わが国を代表する文化財を今に伝えています。



法隆寺境内図



PRINCE SHOTOKU

聖徳太子

聖徳太子(574~622)は推古天皇の時代に蘇我馬子らとともに政治を補佐し、仏教を中心とした国造りを行いました。冠位十二階や憲法十七条の制定、遣隋使の派遣によって政治制度を整えるとともに、法華経・勝鬘経・維摩経の教えを深く研究することで、わが国の文化を大きく飛躍させたことが知られています。生前から「上宮法皇」と呼ばれた太子に対する尊崇はやがて太子信仰として結晶し、その流れは現在も日本仏教のうちに脈々と息づいています。



聖徳太子二王子像(模本) 東

狩野養信模写
江戸時代・天保13年(1842)
東京国立博物館蔵

(部分)

国宝 薬師如来坐像

飛鳥時代・7世紀 奈良・法隆寺蔵

金堂東の間の本尊。口もとに微笑みを浮かべた神秘的な顔立ちや、文様的な裳懸座などに飛鳥時代の様式美を示す名品である。光背背面の銘文によれば、丁卯年(607)にこの薬師如来像を造立したとある。しかし、癸未年(623)に完成した、金堂中の間の釈迦三尊像に比べ、鑄造技術などに進歩がみられるため、制作年代は釈迦三尊像よりも後だと考えられている。飛鳥時代を代表する仏像の一つだが、謎も多い。



1章 聖徳太子と仏法興隆

聖徳太子の祖父にあたる欽明天皇の時代、朝鮮半島の百済から正式に仏教が伝わりました。仏教の受容をめぐっては蘇我氏と物部氏を中心とする戦いなどの混乱がありました。がやがて太子が政治の中心的な立場になると急速に浸透していきます。金銅仏をはじめとした仏像が造られるようになり、太子自らも法華経をはじめ仏教の真理を研究したとされます。この章では太子ゆかりの品々を通じ、聖徳太子その人と最初期の日本仏教を概観します。



夾紵棺断片

飛鳥時代・7世紀 大阪・安福寺蔵
夾紵棺とは7世紀にみられる高級な棺で、通常は漆で麻布を貼り重ねて作られる。ところが本断片は45層もの絹を用いた極めて特殊な構造であり、その幅は記録に残る聖徳太子の棺台(敏福寺北古墳)に一致する。このため太子の棺である可能性が指摘されている。



重要文化財 菩薩立像

飛鳥時代・7世紀 奈良・法隆寺蔵
山形の高い冠、面長の顔に見開いた目、微笑みを浮かべた口、両体側に魚のヒレのように広がった衣の表現など、金堂釈迦三尊像の両脇侍と似ている。止利仏師と同系統の仏師の作と見られる。

3章 法隆寺東院とその宝物

太子が住んだ斑鳩宮。天平11年(739)になって、その跡地に建立されたのが東院伽藍です。中心をなす夢殿の本尊は太子等身の救世観音像であり、創建にあたっては太子の遺品類も集められました。夢殿後方の絵殿・舍利殿には、聖徳太子絵伝と「南無仏舍利」が安置され、太子信仰の重要な拠点でした。本章では聖徳太子の遺徳を称える聖霊会のうち、10年に一度行われる大会式など、東院伽藍にまつわる華やかな法要にも注目します。



国宝 観音菩薩立像 (夢違観音)

飛鳥時代・7世紀 奈良・法隆寺蔵

この像に折れば悪夢が吉夢に変わるとの伝承から「夢違観音」の名がある。明るくほがらかな表情は飛鳥時代後期(白鳳期)の典型を示すが、大きな髷や豊かな肉付けには奈良時代の要素が表れている。軽やかな天衣や繊細な指先に至るまで、随所に洗練された造形感覚が発揮される。



国宝

観音菩薩立像 (夢違観音)

飛鳥時代・7世紀 奈良・法隆寺蔵

この像に折れば悪夢が吉夢に変わるとの伝承から「夢違観音」の名がある。明るくほがらかな表情は飛鳥時代後期(白鳳期)の典型を示すが、大きな髷や豊かな肉付けには奈良時代の要素が表れている。軽やかな天衣や繊細な指先に至るまで、随所に洗練された造形感覚が発揮される。

重要文化財 聖徳太子坐像(七歳像)

平安時代・治暦5年(1069) 奈良・法隆寺蔵

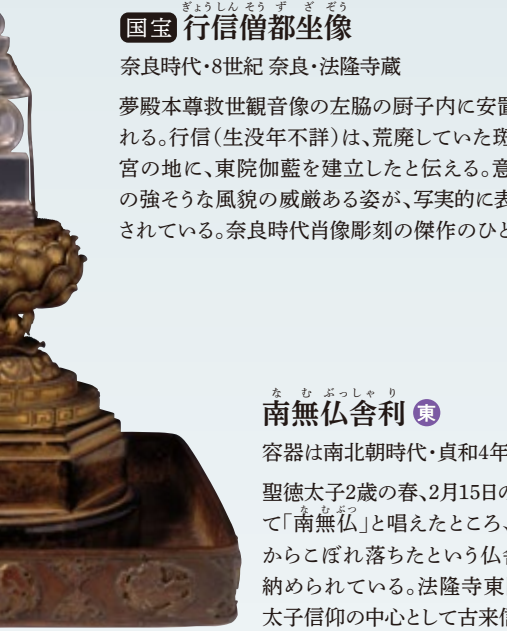
東院絵殿に安置されていた聖霊会の本尊。太子を穏やかな風貌の少年の姿で表す。像内銘により、仏師円伏が制作し、絵殿の「聖徳太子絵伝」を描いたとされる薬致貞が彩色したことが知られている。制作当初の彩色が鮮やかに残っている。



国宝 行信僧都坐像

奈良時代・8世紀 奈良・法隆寺蔵

夢殿本尊救世観音像の左脇の厨子内に安置される。行信(生没年不詳)は、荒廃していた斑鳩宮の地に、東院伽藍を建立したと伝える。意志の強そうな風貌の威厳ある姿が、写実的に表現されている。奈良時代肖像彫刻の傑作のひとつ。



国宝 南無仏舍利

奈良時代・貞和4年(1348) 奈良・法隆寺蔵

聖徳太子2歳の春、2月15日の夜明け頃に東へ向かって「南無仏」と唱えたとところ、その合わせた手のひらからこぼれ落ちたという仏舍利が水晶の五輪塔に納められている。法隆寺東院舍利殿の本尊であり、太子信仰の中心として古来信仰を集めてきた。

(写真提供:小学館)

4章 聖徳太子と仏の姿

平安時代になると、聖徳太子を救世観音の生まれ変わりとする信仰が生まれ、太子も中心的な信仰の対象となりました。その代表作が聖徳太子の500年遠忌に制作された法隆寺聖霊院の「聖徳太子および侍者像」です。今回の特別展は、秘仏本尊として通常には拝観の機会がない本像を間近に拝観できる極めて貴重な機会です。また二歳像や十六歳像など聖徳太子は様々な姿で表されてきました。本章では多彩な太子の姿とともに、法隆寺に伝来した仏画の名品をご紹介します。



重要文化財

聖徳太子像(孝養像)

後期 後期 鎌倉時代 奈良・法隆寺蔵

角髪を結び、病舎を捧げ持ち、袈裟をつける童子形の聖徳太子像。孝養像と呼ばれるこの姿は太子16歳の折、父用明天皇の病氣平癒を祈り、病床に侍って看病した際の様子を描く。太子の肖像のなかでも代表的な作例の一つである。



善光寺如来御書箱

飛鳥時代・7世紀 奈良・法隆寺蔵

聖徳太子は亡き父の用明天皇を弔い、七日七夜にわたって念仏を行った後、その功德を善光寺の阿彌陀如来に回った。本作は、その際に如来から送られた返事(御書)を取めたとされる箱である。全体に蜀江錦が貼られ蔽封されている。



秘仏

国宝 聖徳太子および侍者像

平安時代・保安2年(1121) 奈良・法隆寺蔵

聖霊院の秘仏本尊で、聖徳太子の500回忌にあたり造立された。冠を戴き、笏をとる聖徳太子の威厳に満ちた姿とは対照的に、周囲に配された山背大兄王(太子の子)、龐羅王と卒末呂王(太子の異母弟)、高句麗僧の慈悲法師(太子の仏教の師)はユーモラスな表情をみせる。平安時代後期における聖徳太子信仰の高まりを背景に制作された傑作である。



(侍者像 写真提供:小学館)

5章 法隆寺金堂と五重塔

『日本書紀』によると、法隆寺最初の伽藍(若草伽藍)は天智天皇9年(670)に焼失したとされ、その後再建されたのが現在の西院伽藍です。金堂は7世紀後半に建てられた世界最古の木造建築として知られ、創建以来大きな変化なく伝えられた内陣は、まさに奇跡的空間です。五重塔は仏舎利を祀った建築で、内部には釈迦の生涯などを表した塔本塑像が安置されています。本章では金堂と五重塔ゆかりの仏像を中心に、その荘厳な世界をご覧ください。

国宝 四天王立像 多聞天

飛鳥時代・7世紀 奈良・法隆寺蔵

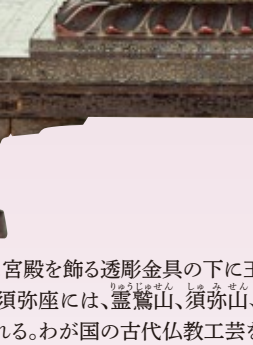
金堂の内陣四隅を守護する日本最古の四天王像。厳しい眼差しを持ちながらも、動きの少ない静謐な姿や、恭しく天王を背中に乗せる邪鬼の姿は極めて独自である。内陣の後方に位置することから、普段は拝観できない応日天・多聞天の両像を本展では公開する。



国宝 羅漢坐像(塔本塑像のうち)

奈良時代・和銅4年(711) 奈良・法隆寺蔵

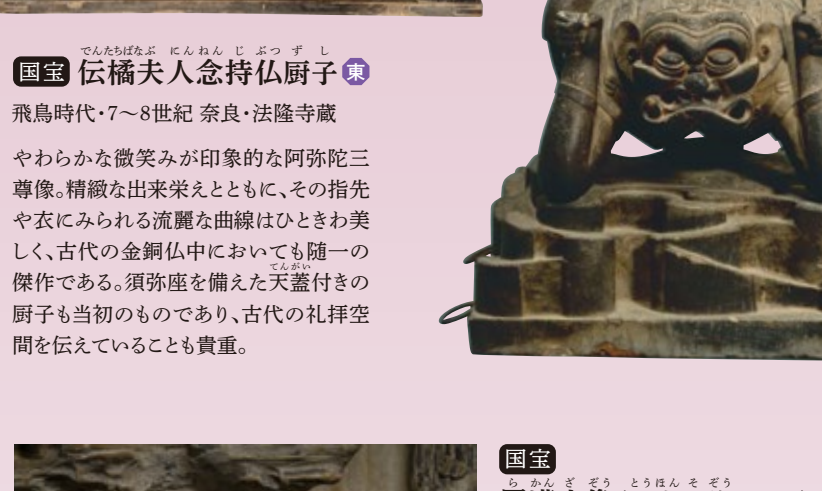
五重塔初層に、心柱を中心にして四面に安置される塑像群。群像によって仏典中の諸場面を表す。なかでも釈迦の死を悼む人々の感情描写は見事で、写実性を追求した奈良時代の幕開けを飾る作品である。



国宝 玉虫厨子

飛鳥時代・7世紀 奈良・法隆寺蔵

須弥座上に宮殿を据えた形の厨子。宮殿を飾る透彫金具の下に玉虫の翅が敷かれることからこの名がある。宮殿や須弥座には、蓋鷲山、須弥山、釈迦の前世の物語である本生譚などの絵が描かれる。わが国の古代仏教工芸を代表する作品。



国宝 伝橋夫人念持仏厨子

飛鳥時代・7~8世紀 奈良・法隆寺蔵

やわらかな微笑みが印象的な阿彌陀三尊像。精緻な出来栄とともに、その指先や衣にみられる流麗な曲線はひときわ美しく、古代の金銅仏中においても随一の傑作である。須弥座を備えた天蓋付きの厨子も当初のものであり、古代の礼拝空間を伝えていることも貴重。

2章 法隆寺の創建

聖徳太子は、自らが住む斑鳩宮に隣接して法隆寺を創建しました。『法隆寺資財帳』では推古天皇15年(607)のこととして、同年には小野妹子が遣隋使として中国大陸に派遣されています。法隆寺の創建は冠位十二階制定(603年)以降の目覚ましい歴史的な転換期に重なったものであり、その名が意味するように「仏法興隆を推し進める中心地」であった。本章では儀式の場を用いられた多くの仏具や伎楽・面を通じ、法隆寺の荘厳をご紹介します。

国宝 灌頂幡

飛鳥時代・7世紀 東京国立博物館蔵(法隆寺献納宝物)

金銅の板を彫り透かして作られた極めて豪華な幡で、天上から舞い降りる菩薩の姿が雄大に表されている。『法隆寺資財帳』には「片岡師祖命」によって奉納されたと記録されており、これは聖徳太子の娘である片岡女王のことと考えられる。



(部分)

国宝 天寿国繡帳

飛鳥時代・推古天皇30年(622)頃 奈良・中宮寺蔵

聖徳太子が亡くなられた後、橘妃の願いを受け、推古天皇の命によって作られたという帷(カーテン)の断片。太子が往生したという「天寿国」のありさまが緻密な刺繍によって表わされており、飛鳥時代の仏教思想を知る上でも極めて重要な作品である。



(部分)

法隆寺 献納宝物とは

厩仏殿釈迦運動の動乱から法隆寺と宝物を守るため、明治11年(1878)に皇室へ献納された仏教美術を中心とする作品群。正倉院の宝物とともに、わが国古代美術史上の双璧をなし、特に飛鳥時代の作品を多く含んでいます。終戦後の国有化を経て東京国立博物館が所蔵しており、約320件からなる内容は絵画・書跡・彫刻・金工・木漆工・染織と多岐にわたります。いずれもわが国における仏教美術の黎明期を考察する上で貴重な作品です。